

令和7年度 地域連携推進会議 議事録

事業者	社会福祉法人桜友会					
事業所	日中サービス支援型共同生活援助 メゾン・ムートン・ムートン					
日 時	令和8年1月17日（土）13：00～15：00					
場 所	メゾン・ムートン・ムートン 1階共用スペース					
出席者	構成区分	職名等	人数			
	地域住民代表	関市稻口自治会長	1名			
	関市職員	関市健康福祉部福祉政策課課長補佐	1名			
	福祉に知見のある方	生活介護だいち施設長	1名			
	家族代表	入居者家族	1名			
	入居者代表	入居者	2名			
欠席者	法人代表	理事長、管理者、サービス管理責任者	3名			
	家族代表	入居者家族	1名			
次 第	1. 開会・出席者紹介 2. 施設等・地域の連携 <ul style="list-style-type: none"> (1) メゾン・ムートン・ムートン活動内容 (2) 近隣からの苦情等の共有 3. 施設等やサービスの透明性・質の確保 <ul style="list-style-type: none"> (1) 入居者の日常生活の様子について (2) 経営状況の報告 (3) B C P（業務継続計画）の策定状況について 4. 利用者の権利擁護 <ul style="list-style-type: none"> (1) 虐待、改善案、ヒヤリハットの報告 (2) 利用者等アンケート集計結果 5. 閉会・理事長挨拶 6. 見学会					
協議内容・意見等						
1. 開会・出席者紹介 2. 施設等・地域の連携について <ul style="list-style-type: none"> (1) メゾン・ムートン・ムートン活動内容 <p>【質問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の入居者数についてと、内部研修のB C P訓練をどのように行っているか。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 30%;">事業所より</td> <td>・令和8年1月17日時点で男性9名、女性6名。また、B C P訓練は後段のB C Pの策定状況の中で詳細を説明する。</td> </tr> </table> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域生活への支援について、共生社会実現に向けた良い取り組みである。 (2) 近隣からの苦情等の共有 <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域からの苦情は特に聞いておらず、今後も現在の取り組みを継続してほしい。 				事業所より	・令和8年1月17日時点で男性9名、女性6名。また、B C P訓練は後段のB C Pの策定状況の中で詳細を説明する。	
事業所より	・令和8年1月17日時点で男性9名、女性6名。また、B C P訓練は後段のB C Pの策定状況の中で詳細を説明する。					

3. 施設等やサービスの透明性・質の確保

(1) 入居者の日常生活の様子について

【意 見】

- ・5月の見学交流会の行事について、職員が尽力してくれたことへ感謝している。行事の中のバーベキューについては、家族と入居者だけでなく職員も一緒に食事をして、楽しさを共有して欲しい。
- ・普段の生活は楽しい、外出イベントは参加していない。
- ・現在楽しく生活ができるおり、特に食事が美味しい。
- ・個別支援においては、入居者の希望を丁寧に確認し、情報提供を行ったうえで意思決定支援に繋げていくことが、福祉従事者として重要と考える。

事業所より	・職員も一緒に食事を行うことについては、実現できるように次回に活かしたい。
-------	---------------------------------------

(2) 経営状況の報告

【質 問】

- ・人件費が大きな割合であるが職員の配置状況はどうなっているか。

事業所より	・人員配置体制の加算をとっており、法定人員より十分余裕のある職員配置で体制を整えている。
-------	--

(3) B C P（業務継続計画）の策定状況について

【質 問】

- ・内部研修のB C P訓練をどのように行っているか。〈※2（1）での質問〉

事業所より	・災害リスクは最大3メートル浸水被害が想定されるため、2階以上の避難が必要。よって、避難訓練は本部2階と事業所2階への避難誘導をそれぞれ行っている。 ・事業所の防災備蓄品は本部で保管されているため、備蓄品や井戸水の場所など確認する訓練も行っている。
-------	---

【意 見】

- ・緊急時の連絡手段として、家族のEメールアドレスを活用した一斉メール配信を行う仕組みがある。また、食べやすい備蓄食としてパスタ等の検討もしている。
- ・偏食やてんかん発作への不安から、乾パンやようかん等を家族としても備えていきたい。また、服薬継続が体調管理に不可欠でありストックして備えている。
- ・停電時の対応については即答が難しく、事前の想定と備えが重要と考える。
- ・災害対策は対策困難な事案もあるため、まずは対策可能なことから手を付けていけば良い。

4. 利用者の権利擁護

(1) 虐待、改善案、ヒヤリハットの報告

【意 見】

- ・虐待を発見した際は疑いの段階で通報義務があり、事業所が通報の判断をするわけではなく、発見者全員に通報義務が生じる。
- ・送迎時においては、乗車時に手を引っ張ったり、後ろから押したりと支援の場面が第三者から誤認される可能性もあるため、日頃からの配慮と説明を重視している。

- ・市で把握している虐待の通報件数について、令和6年度は件数が多かったが、令和7年度は比較的落ち着いている状況である。
- ・身体拘束を行わずに安全を確保する方法については、地域全体の支援力向上に繋がるため、事業所連絡会等の場も活かして情報共有を行い、事業所同士の連携強化ができると良い。

(2) 利用者等アンケート集計結果

【意見】

- ・精神的に不安定な症状に対する支援の難しさがあるなか、直接係わる職員が平常心で対応されている点が良い。
- ・支援前に必ず声掛けしている点については、安心感があり、そうした配慮はとても大切だと考えている。

5. 閉会・理事長挨拶

6. 見学会

【実施状況】

- ・会議不参加であった入居者は、希望に応じて道の駅『平成』への外出イベントへ参加いただいた。また、外出後は事業所の2階で五平餅づくりを実施したため、見学会の時間帯には、多くの入居者が五平餅づくりに取り組まれていた。
- ・通常見学時は空き部屋を案内するが、今回は居室内の見学の了承をされた3名の入居者の居室について、構成員の方々へ見学していただいた。

【意見】

- ・居室内を見ることができたため、生活場面をよく理解することができた。
- ・居室内はそれぞれの趣味があり、その方の色で染められた部屋からは、個性豊かに生活を楽しめている様子が想像できた。
- ・居室内は服薬カレンダーを使用して、本人が管理しやすい工夫をしていることがよく分かった。
- ・会議に参加されていない入居者の方々が、2階で五平餅づくりを取り組まれているのを見学でき、楽しく生活されている様子が伺えた。